

よもやま話 その3

イトマンSS西神戸校
2010年10月17日号

今回は、『読書をしよう!』シリーズ第2弾!! 『読み聞かせ』についてまとめてみました。

①なぜ、絵本を読んであげるといいのか?

親しい人から声をかけられると嬉しいのと同じで、子供は絵本を読んでもらうと、嬉しい気持ちで心が育ちます。また、お父さんやお母さんから読んでもらうと、本の面白さと一緒に愛されている気持ちも受け止めることができます。

②いつ頃から読んであげればいいのか?

『10ヶ月ころ』とか『生まれてまもなく』などいろいろと言われてはいますが、決まった時期はなく、子供が興味を示してくれた【その時】です。今からでも遅くはありません。

③どんな絵本を読んであげたらいいのか?

子供が好きなものが出てくる本や言葉のリズムが心地よい本、自分が読んでいて楽しい本、子供自身が選んだ本などです。

④テレビやビデオではダメなのか?

テレビやビデオが絵本と違うところは、画面が見ている人に関係なく勝手に進んでいくことです。絵本は読む人の言葉や表情に応えながら子供達の夢や想像力を育てていきます。

⑤本は買い揃えた方がいい?

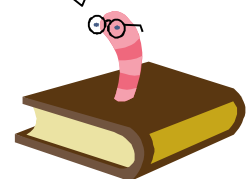
本当に気に入った本であれば、買ってあげるとその子の宝物になります。また、図書館などを利用するのもいいと思います。

⑥読もうとすると逃げ出してしまう時はどうしよう?

子供自身がやりたいことがある時なので、親の都合ではなく、子供が甘えたい時や寝る前など落ち着いた時に読んであげると効果的。

⑦字のない絵本はどうやって読む?

絵だけでストーリーがわかるようになっているので、いろいろなイメージを膨らませながら自分の言葉でお話してあげるといいと思います。



⑧まだ読んでいるのにすぐにページをめくってしまう時には？

まだ、ストーリーそのものを楽しむ段階ではないので絵をみながら、自分の言葉で語ってあげてください。字の少ない絵本はどうでしょうか？

⑨同じ絵本ばかり

読んでほしいときは？

その絵本の世界をたっぷりと楽しみたいのでしょうかから、求めてくるなら何回でも繰り返し読んであげましょう。

⑩絵本をかじったり、投げたりするのはなぜ？

単純に本の扱い方を知らないだけです。それでも、子供の本はいつも、子供の手の届くところにおいてほしいものです。子供が見たいときにいつでもみられるように。

⑪何歳頃まで読んであげればいいのか？

『もう読んでくれなくてもいい。』と子供に言われるまでです。『字が読めるんだから自分で読みなさい。』はNG。子供は読んでもらいながら、想像力を豊かにし、心を温かくしています。



⑫読んであげても理解できるのかな？

その時に内容が理解できなくても、繰り返し聞いているうちにわかってきます。安心できる人に抱かれて、肌の温もりを感じながら優しい声を聞くのが嬉しいのです。

⑬年齢に合う本は？

- ★ 0～3歳（子守話期）
言葉は単純で繰り返しがあり、活字が少なく、絵は明快で暖かい色彩の絵本が好まれます。
- ★ 3～5歳（昔話期）
起承転結があり、善悪の区別がはっきりしている本が好まれます。『昔話』のような内容に興味を覚えます。
- ★ 5～7歳（萬話期）
いろんなジャンルの本に関心を持つ時期です。生活に身近なものを対象にした本で『繰り返し』のある内容を大事にしてあげるといいです。
- ★ 7～10歳（童話期）
読書への態度や習慣を形成していく大切な時期です。内容としては子供の生活とその周辺からかけ離れないもの、一つの文が短いもの、挿絵の多いもの、登場人物が少ないものなどが好んで読まれます。
- ★ 10歳以上（物語期）
集団行動に興味を持ち、友達や社会への適応が旺盛な年代。読書にも個人差、男女差で大きく違いが表れてきます。

参考にしていただければ嬉しいです。

私も先日、読み聞かせに挑戦しましたが読んでる途中で子供より先に寝てしまい、しばらくの間、家族から白い目で見られることになってしまいました（哀）。読み聞かせは自分との戦いでもありました（笑）。